

■淳仁天皇 47代天皇。天武天皇の孫。藤原仲麻呂の覇権で天皇となるも、恵美押勝の乱で廃帝となり、憤死した。

じゅんにんてんのう

風土記完了・733= 生。天武天皇の孫で舎人親王の第7子。母は当麻老の女山背。諱は大炊王。

藤原四卿没・737= 4歳：

墾田永世法・742= 9歳：

懐風藻・・・751=18歳：

聖武天皇没・756=23歳： 聖武太上天皇が崩御すると、

橘奈良麻呂乱 757=24歳： 皇太子道祖王が、諒闇中に不謹慎であるとして廃され、孝謙天皇(女帝)が召集した立太子会議で、諸王のうち、長壯ではないが過悪を聞かずに、大炊王の立太子が決められた。藤原仲麻呂は、かねて大炊王を自分の田村第に置き、亡男真從の婦であった粟田諸姉を配侍させていたが、ここで子の薩雄と中衛舎人らを遣わして宮中に迎え、立太子させた。同年、橘奈良麻呂の反乱計画が発覚した。仲麻呂を打倒し、光明皇太后を傾けて、皇太子大炊王を廃し、塩焼・黄文・安宿・道祖王のうちから、新君を立てようとしたが、

孝謙天皇讓位 758=25歳： *大炊王は孝謙天皇の讓位をうけて淳仁天皇となった。官号を唐風に変え、仲麻呂を大保(右大臣)に任じ、その氏姓に恵美の2字を加え、名を押勝と賜い、永世の功封・功田、その他の特典を与えた。

光明皇后没・760=27歳：

新羅征討計画 762=29歳： 上皇は法華寺、天皇は中宮院に帰り、上皇は、"常祀小事"は淳仁天皇、"国家大事、賞罰二柄"はみずから執行すると宣言した。その後の大政執行権は事実上上皇にあったとみられる。

恵美押勝の乱 764=31歳： *押勝が反乱を起こすと、上皇は淳仁のもとにあった鈴印を収め、また押勝の官位・全処遇を剥奪し、藤原朝臣姓を除いて、追討を命じた。仲麻呂敗死後、上皇は兵部卿和氣王らの率いる兵で中宮院を囲ませ、仲麻呂と同心して上皇を除こうとしたとして、淳仁を廃して親王とし、淡路公として配所の一院に幽閉し、重祚して称徳天皇となった。

・・・・・・ 765=32歳： 称徳は紀伊国へ行幸して廃帝を挑発、幽憤に堪えかねた廃帝は、逃亡を計って阻止され、院中で没した。廃帝ののちに大炊親王・淡路親王・淡路廃帝・淡路公などとよばれた。